

令和 8 年度首里城扁額製作検討委員会

第 1 回 検討委員会資料

2026年8月17日（月） 13:30 - 15:30

【資料 2】本製作の作業進捗について

1. 「中山世土」の進捗
2. 「輯瑞球陽」の進捗
3. 「永祚瀛壖」の進捗

<額縁装飾部>の髹漆→完成

彫刻

～2025
9月

髹漆

～2026
6月

- 作業工程については、令和8年3月から、6月までへ期間を延長した。
- 9/12、東京藝大チームより額縁装飾部が引き渡され、髹漆工程を行った。
- 額縁装飾部を接着し、令和8年6月23日に治具を取り外して完成した。



今回委員会にて、完成の確認をお願いします。

<御印> 作業進捗状況

髹漆

2025
9月～

- 2025年11月18日に浦添市美術館にて「朱漆花鳥堆錦箱」「朱漆山水人物堆錦刀掛」「朱漆葡萄唐草堆錦台」「朱漆花鳥堆錦螺鈿掛板」を熟覧し、堆錦餅の色と朱塗の関係性を確認。
- 2026年3月10日台座の髹漆が完了。
- 試作を製作し、2026年5月14日に御印仕様ミーティングを実施。



試作 黄色餅 + 朱漆塗 (3回)



試作 朱色餅 + 朱漆塗 (3回)

<題字> 作業進捗状況

彫刻

2025年
9月～11月

髹漆

2025
1月～

- 彫刻は2025年10月17日に角部の形状確認監修を実施。11月17日に完了。
- 髹漆は布着せはせず、中塗りまで完了。
- 2026年6月16日、地板へ麦漆で接着し、仮釘により固定。7月2日に釘抜き。
- 仮釘の穴を塞ぐために、目摺・目摺水研・中塗り(2回目)を実施。



彫刻完了時



鋤彫り前の確認



仮釘打ち

○麦漆に混ぜる木粉について

- 麦漆に混ぜる木粉については、平成復元時に複数樹種による比較試験を実施した結果、デイゴが最も接着性（食いつき）に優れるとの知見が得られている。これを踏まえ、「中山世土」の製作ではデイゴを採用した。
- 一方、その後の仕様検討において、近世琉球の漆工材にデイゴの使用事例が確認できなかったため、「輯瑞球陽」「永祚瀛壖」の製作については、改めて木粉の樹種変更に関する検討を行った。
- 変更する木粉については、往時の漆芸家が日常的に使用・保管していたと想定される材料であることに加え、組織が柔らかく漆分が浸透しやすく、麦漆硬化後の強度向上が期待できるスギへ変更した。

○変更する木材に関する主な関係者意見

【安里委員】

- 近世琉球の漆工における使用木材について関連史料を調べたところ、近世琉球の漆工材・木工彫刻材・建築材などの有用材に、デイゴを使用した事例は確認できなかった。
- 麦漆に混ぜる木粉は、職人の身近にストックしてある有用材から生成したと考えると、デイゴ木粉を使用した可能性は低い。扁額製作で、麦漆に混ぜる木粉の材は、イヌマキがその候補材になる。

【室瀬委員】

- 麦漆に混ぜるのは油分の無い柔らかい材が多いため、スギは候補材としての可能性は高いと考える。
- 組織の柔らかな木粉の方が漆分が染み込み易く、食いつきが良いため、麦漆硬化後の強度は上がる。

【糸数委員】

- 麦漆が乾燥するにつれ次第に収縮するため、木粉は固めのイヌマキ材を使用したほうが良いのではないか。
- 麦漆が収縮した時に固めの木粉を使うことで、麦漆を若干残すことができ、接着力が高まると考える。

【室瀬委員】

- 今回の接着に関しては、隙間が生じた箇所に麦漆が充填され易いとの配慮かと考える。実際にはそれほど大きな隙間が空くとは思えないため、目的は接着の食いつきの良さが問われていると考える。

< 地板 > 作業進捗状況

髹漆

2025
10月～

- ・ 2025年10月8日から一辺地付けから開始。
- ・ 2026年4月13日、縁塗りの位置出しのための仮組・解体。
- ・ 2026年6月29日、縁塗り-青（緑）完了。

黄色中
塗

本組



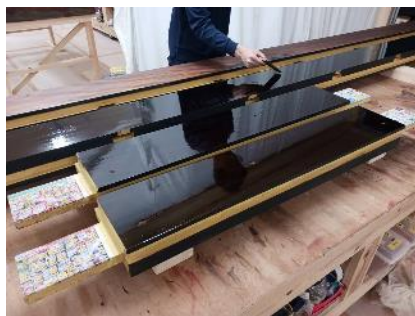
縁塗り-青(緑)完了

< 額縁構造部 > 作業進捗状況

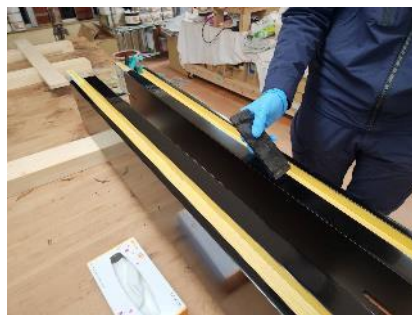
髹漆

2025年9月～
2026年3月

- ・ 2025年9月からは下塗水研の工程を実施し、11月17日に完了。
- ・ 11月28日には上塗りに着手～2026年2月12日に完了。
- ・ 12月12日には墨ふくり帰塗を実施。
- ・ 2026年3月2日に完了。



上塗り

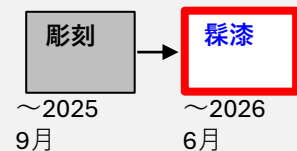


上塗り完了



裏面の墨ふくり帰塗

<額縁装飾部> 作業進捗状況



- 2025年9月1日から成形開始。2025年10月から絵付け着手。
- 11月25日、琉球王家に由来する資料の熟覧を実施
- 2026年6月25日、仕上彫り中間監修を実施。



成形



試作



仕上彫り中間監修

【熟覧結果】（波多野監修者レポートを要約）

- 額縁彫刻は、一部（上辺左から左側辺上部）にやや粗さが見られるものの、概して精緻な彫りである。上辺正龍は額前面を向き、口角を耳方向へ大きく引き上げた阿形相を示す。
- 彫刻部分は、蒲鉾状に成形された材の断面形状をおおむね保ちながら、龍の体幹部のうねりや瑞雲の配置により、上下・左右だけでなく前後方向にも動きが表現されている。瑞雲は単純な重なりではなく、七宝繋に向けて彫りを下げ、潜り込むように見せる箇所もある。
- 鱗は部位や動きに応じて大きさ・形・向きが変えられ、均一ではない。脚部に筋肉表現が施され、下腿部から足先にかけては細く鋭い硬質な表現となっている。また、脚付け根付近の火焰は龍の輪郭や脚の形に沿い、体幹部や上腿部の量塊にまわりつくように表現されている。

<御印> 作業進捗状況

木工

2026
5月～

- 2026年5月18日、御印・題字の配置確認監修を実施。
- 6月、地板への穴開け加工を実施。
- 6月、台座を製作。



配置確認



地板穴開け

<題字> 作業進捗状況

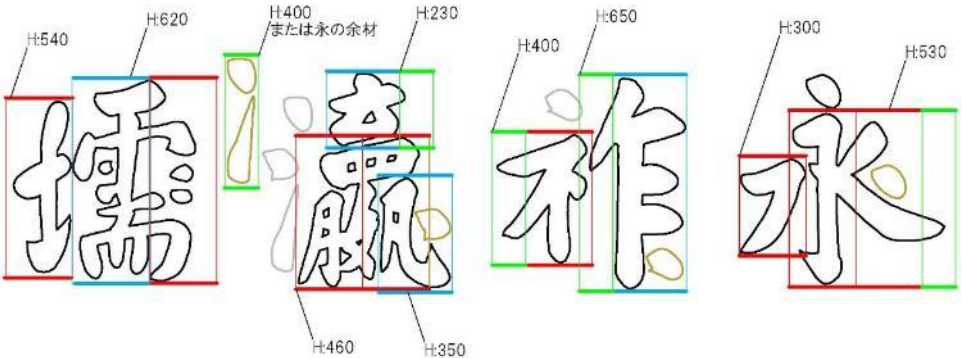
木工

2025年7月 予定
～

- 今月(7月)、接ぎ合わせ着手予定

3枚目の題字板接ぎ合わせ案
— W:200mm — W:100mm
— W:220mm以上
※W200はW220に統一してもよい
(大は小を兼ねる)

波多野監修者
修正案
右寄せをしない場合は終年で接
ぎ目が開くことを考慮し、接ぎ長を
短くする案
W200で注文に対し長谷川商店
からはW220で納入されたことか
ら、同幅の入手性を加味したもの
の



接ぎ合わせ案

< 地板 > 作業進捗状況

木工

2026
2月～

- 2026年2月5日から木作り、吸付棧木取りに着手。
- 3月23日より、吸付棧溝彫り。
- 5月15日完成、技術継承の観点から見学会を実施。



木かすがい



吸付棧溝彫り



完成

「永祚瀛壖」木工見学会

参加者：復元製作に興味のある県内木工技術者7名

工芸振興センター在籍生・修了生へ大城直也監修者が参加を呼びかけた。

【主な質疑応答】

- 吸付棧の角度（締り勾配）はどの程度か？ ➢ 1 mあたり 3 mmの勾配をつけている。
- 地板の接ぎ合わせはどのような手法か？
➢ 復元仕様であるため、接合部に板を挟む「雇い」は使わず、膠で直接面を合わせる「芋付け」で行っている。また、一度に全て接着することは不可能であるため、2枚ずつ接着し、それをさらに合わせるという手法をとった。
- 長大な材の基準面作りは、手押しカンナ（機械）でできるのか？
➢ 機械や補助台では上手くできないため、全て手作業で行う必要がある。鉋が面にしっかり当たっている感覚を手と体で覚える必要があり、短い鉋ではなく長さのある鉋を使用して仕上げていく。
- 1～3枚目の加工を通して、一番苦勞した点はどこか？
➢ 吸付棧の絞り勾配の加工である。ホゾ（胴付き）を先に作ってしまうと後から調整が効かなくなるため、必ず吸付棧を先に作り、入る硬さを確認してからホゾを作る手順を厳守した。



<額縁構造部> 作業進捗状況

木工

2026
2月～

- 2025年10月29日から木作り、埋木作業に着手。
- 3月23日より、吸付棧溝彫り。
- 5月15日完成、見学会を実施。



四方柄組み



吸付棧通し柄加工



吸付棧柄穴加工



埋め込み金具加工

<額縁装飾部> 作業進捗状況

木工

2025年7月30日
完了

- 7月30日完了。彫刻担当へ引き渡し済。



構造部との重なり具合



重なり of the alignment



揃いの確認